

## あとがき

本書は(公益財団法人)国際宗教研究所・宗教情報リサーチセンターの開設20周年を記念して刊行された。同時に刊行された『日本における外来宗教の広がり—21世紀の展開を中心に—』と姉妹編である。

宗教情報リサーチセンター(RIRC)は1998年11月に設立された。設立の理念に基づいて、国内外の宗教情報の収集とその分析、そして発信を行ってきた。とくに21世紀に入ってからは、多くの文献資料や情報が収集できている。それらに宗教を専門的に研究している立場からの慎重な検討を行った上で、できる限り正確に発信していく作業が大きな課題となっている。本書は今後さらに積み重ねられていく、このような作業の一環としての意味を担っている。

執筆はRIRCの現在の研究員と、かつて研究員であった人たちをお願いした。研究員の専攻分野と研究分野は多岐にわたるが、国外で調査した経験がある人や、執筆時に国外で調査あるいは研究中であった人に担当してもらっている。やむを得ないことであるが、分野にはいささかの偏りが生じている。アジア、欧米は現地調査を踏まえたものを含めて論じることができたが、その他の地域は、主として他の研究者の調査報告書や、ウェブ上の情報を利用することになった。また開設以来センター長を務めさせてもらっている編者は、最初に全体の見取り図のようなものを描いた。

執筆のための研究会は2016年にスタートした。10月に第1回の研究会を開いた。以後2018年に至るまで数度の研究会を開催し、それぞれ担当を決め執筆してもらった。各自が集めた基本的資料・データはオンラインで共有することにし、それを踏まえて意見を交わした。RIRCで収集し公開している新聞、雑誌のニュース記事にも、新たな光が当てられることもあった。都合上、刊行は2冊に分けられたが、研究会はそうした区分とは関係なく行われた。

本書で述べられていることを読んでいただければ分かると思うが、日本の宗教の海外における活動というのは、いろいろな条件に左右されている。広がりやすい地域があれば、広がりにくい地域もある。外国人にも受け入れられやす

い宗教もあれば、そうでない宗教もある。その理由は決して単純ではない。地域の文化にもその地の社会的条件にも、そしてそこで布教を試みた人の姿勢や考え方にもよる。個々の事例から、宗教が国境を越えて広がるときには、さまざまな形態があることが分かるが、それをグローバル化時代における宗教の展開を考える、より広い視点へとつなげる一助となればと思っている。

本書は電子書籍としても公開する。『日本における外来宗教の広がり—21世紀の展開を中心に—』の「本プロジェクトの意義」の章で述べておいたように、ここで扱った各種データ、また地図上に示せるようなデータなどは、より詳細なものをウェブ上で公開し、バージョンアップしていく予定である。RIRCのホームページからすでにダウンロードできるようになっている他のデータとともに、多くの人に利用活用してもらい、宗教の理解や宗教の研究に役立ててもらおうことを願っている。

2019年2月

井上順孝